

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週：令和5年第14週 令和5年4月3日(月) ～ 令和5年4月9日(日)

今週：令和5年第15週 令和5年4月10日(月) ～ 令和5年4月16日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染の状況	陽性者数	①総数	785人	799人	↗	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 ^{※1}	695人	723人	↗		
		セルフテスト陽性 ^{※2}	90人	76人	↘		
	②対人口10万人（総数）	51.0人	51.9人	↗	1,433人	令和4年第30週	
	③前週との増加比（総数）	1.28	1.02	↘	18.0	令和4年第1週	
④陽性率 ^{※3}	16.2%	15.6%	↘	64.3%	令和4年第30週		
医療提供体制	⑤入院患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	47人	37人	↘	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	9.7%	7.6%	↘	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥重症患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	0人	0人	→	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	0.0%	0.0%	→	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計

※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）

※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。

※4 直近の日曜日の報告数

＜変異ウイルス検出状況＞

川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関のゲノム解析によって確定された件数

系統		前週	直近1週間	累計
		R5.4/3 - R5.4/9	R5.4/10 - R5.4/16	R3.3/11 - R5.4/16
アルファ株		0	0	203
デルタ株		0	0	626
オミクロン株	BA.1系統	0	0	581
	BA.2系統	5	1	557
	BA.2.75	(5)	(1)	(72)
	上記以外BA.2	(0)	(0)	(485)
	BA.4系統	0	0	9
	BA.5系統	7	7	962
	BF.7	(4)	(0)	(55)
	BQ.1	(2)	(6)	(102)
	上記以外BA.5	(1)	(1)	(805)
	XBB系統	4	17	34
	XBC系統	0	0	2

※令和5年2月7日公表分から、BA.2.75、BF.7、BQ.1、XBB系統、XBC系統の件数を新たに掲載しております。

<評価>

令和5年第15週（令和5年4月10日～4月16日）

令和4年第52週より令和5年第9週まで10週連続して減少していた陽性者総数は、第9週514人から第12週491人と低い数で増減を繰り返し、第13週615人以降、第14週（前週）785人、第15週（今週）799人と4週連続して増加傾向となっています。前週との増加比も、第13週1.25、第14週（前週）1.28と2週連続して1.0を超えて増加していましたが、第15週（今週）は1.02と減少し、増加幅が小さくなっています。

令和4年第52週より令和5年第10週まで11週続けて減少していた入院患者数は、第10週25人以降も、第11週27人、第12週22人と減少傾向が続いたのち、第13週32人、第14週（前週）47人とやや増加傾向となりましたが、第15週（今週）は37人と減少しています。

入院中の重症患者数は第10週1人、第11週～第15週（今週）は5週連続して0人となっています。

指標としている10項目のうち、感染の状況を表す6項目については、第14週（前週）は6/6が増加でしたが、第15週（今週）は増・減とも3/6となっています。医療提供体制では4項目中入院患者数関連の2/2項目が減、重症患者数は0人が続き2/2項目が不変、という状況です。

<感染の状況：直近1週間>

① 昨年暮れから現在にかけてのいわゆる第8波では、医療機関から報告された陽性者数は、第43週2,676人から増加が続き、第50週11,814人をピークとして第51週より減少が始まりました。本年に入ってから、第1週8,719人から第9週436人まで、昨年第51週以降11週続けて減少しました。第10週499人、第11週405人、第12週416人と、低い数値で増減を繰り返していましたが、第13週543人、第14週（前週）695人、第15週（今週）723人と、4週連続して増加となっています。

セルフテスト陽性者数は、昨年第42週378人から増加が続き、本年第1週3,166人がピークとなりました。第2週1,873人から、第11週58人まで、10週連続して減少していましたが、第12週75人、第13週72人、第14週（前週）90人、第15週（今週）は76人と増減を繰り返しています。

医療機関報告分とセルフテスト陽性者数の総数は、昨年第50週14,457人がピークで、第51週より減少が始まりました。本年に入ってから、第1週11,885人から、第9週514人まで、第51週以降11週連続して減少していましたが、第10週は566人と増加しましたが、第11週は463人と再び減、第12週491人、第13週615人、第14週（前週）785人、第15週799人と4週続けて増加しています。

② 対人口10万人あたりの陽性者数は、昨年第50週938.8人がピークで第51週から減少が始まりました。本年に入ってから第1週771.8人から、第9週は33.4人と11週連続して減少しました。第10週は36.8人と増加に転じていますが、第11週は30.1人と再び減少、第12週31.9人、第13週39.9人、第14週（前週）51.0人、第15週（今週）51.9人と4週続けて増加しています。

③ 前週との増加比は、昨年第44週1.73をピークにして第49週1.09まで5週続けて減少傾向となりました。第50週は1.22と増加しましたが、第51週は0.99と再び減少に転じ、9週間ぶりに1.0以下となりました。本年第1週0.97からも多少の増減を繰り返しながら全体的な減少傾向は続きましたが、第8週0.63から第9週0.71と増加傾向となり、第10週は1.10と1.0を超えました。第11週は0.82と再び減少かつ1.0を下回りましたが、第12週1.06、第13週1.25、第14週（前週）1.28と3週連続して1.0を超えて増加し、第15週（今週）は1.02と減少しました。1.0以上は4週連続していますが、第15週（今週）は増加幅が小さくなっています。

④ 検査陽性率は、本年第1週60.4%から減少が続き、第9週8.8%まで8週連続して減少していましたが、第10週は9.8%と増加に転じていますが、第11週は8.4%と減少、その後第12週10.9%、第13週11.9%、第14週（前週）16.2%と3週連続して増加し、第15週（今週）は15.6%と減少になっています。

す。

<医療提供体制等の負荷：報告日 4月16日現在>

- ⑤ 令和4年の入院中の患者数は、第7週335人がいわゆる第6波のピーク、第7波は第31週368人がピークでした。第8波は、第51週315人がピークで、本年に入り第1週274人から第10週25人と、第52週以降11週連続して減少していました。第11週は27人と若干増加しましたが、第12週は22人と減少し13週ほぼ連続して減少傾向にありましたが、第13週32人、第14週（前週）47人と2週連続して増加、第15週（今週）は37人と減少しています。

入院病床使用率は、第6波では昨年第7週70.2%がピーク、第7波では第31週75.9%がピークでした。第8波は昨年第51週64.9%がピークで、本年第1週56.5%以降は、第10週5.2%と第52週以降11週連続して減少していました。第11週は5.6%と若干の増加をしましたが、第12週は4.5%と減少し、13週ほぼ連続して減少傾向にあると言えましたが、第13週6.6%、第14週（前週）9.7%と2週連続して増加し、第15週（今週）は7.6%と減少しています。

確保病床数は現在合計485床です。

- ⑥ 入院中の重症患者数は、第6波では昨年第8週30人がピークで、第21週から第25週の5週間は0人でした。第7波では第32週14人がピークで、第40週から第43週の4週間は1人でした。第8波は第49週に11人と増加した後いったん減少し再び増加、本年第3週の13人がピークでした。第4週9人以降、第5週4人→6人→1人→1人でしたが、第9週は0人となり、昨年第25週以来36週ぶりに重症入院患者数0となりました。第10週は1人と増加しましたが、第11週～第15週（今週）と5週連続して0人が続いています。1人以下とすると、第7週以降9週連続して1人以下となります。

第6波の重症病床使用率は昨年第8週の43.5%がピークで、第21週から第25週は入院中の重症患者数0人のため重症病床使用率も5週連続して0.0%となっていました。第7波は第32週の20.3%ピークで第40週から第43週は1.4%となっていました。第8波では、令和5年第3週18.8%がピークで、若干の増減を繰り返しながら第7週・第8週は1.4%、第9週は0.0%となり、昨年第25週以来36週ぶりに重症病床使用率0.0%となりました。第10週は1.4%となりましたが、第11週～第15週（今週）は5週連続して0.0%となっています。

重症者の確保病床は現在69床です。

<変異ウイルス検出状況>

第15週（今週）も、オミクロン株のみで、BA.1系統0件、BA.2系統1件（BA.2.75が1件）、BA.4系統0件、BA.5系統7件（BF.7が0件、BQ.1が6件、それ以外のBA.5が1件）、XBB系統17件、XBC系統0件でした。数は少ないのですが、割合としてXBB系統が増加しています。オミクロンの中での変化が続いていますが、これまでに免疫逃避（ワクチン効果の低下や感染者での免疫の維持期間が短くなる）の可能性が見られる場合がありますが、重症度や感染力、症状などに大きな変化は見られていない、と分析されています。

昨年末より本年第9週にかけて、本市での新型コロナウイルス感染症は、陽性者・入院患者・重症患者数の減少が続いていましたが、第10週は陽性者総数およびそれに関連した指標が増加傾向に、第11週は減少、第12週から第14週と3週連続して増加傾向になり、第15週は増加が鈍った感があります。再び増加するのか、小さな増減を繰り返すのか、あるいはこのまま減少に転ずるかなどについては、引き続き様子を見ていく必要がありますが、数値の小さな幅での増減に一喜一憂する必要はないと思います。

入院患者については、第15週は減少し、入院中の重症患者数については第11週から第15週（今週）の5週連続して0人が続いており、1人以下の重症患者数とすると、第7週以降9週連続して1人以下となっています。

厚生労働省アドバイザーボード会議では、新型コロナウイルス感染症だけではなく、一般に感染症の流行が落ち着いている時期であっても、地域での感染症の流行状況に関心を持ち、自らを感染症から防ぎ、身近な人を守る、ひいては社会を感染症から守ることは重要であるとし、感染防止の5つの基本として、

- ①体調不安や症状がある場合は、無理せず自宅で療養あるいは受診をする。
 - ②その場に応じたマスクの着用や咳エチケットの実施
 - ③換気、密集・密接・密閉（三密）の回避は引き続き有効
 - ④手洗いは日常の生活習慣に
 - ⑤適度な運動、食事などの生活習慣で健やかな暮らしを
- をあげて、ぜひ日常から理解して身に付けておいていただきたいこと、と呼び掛けています。